



平成 30 年 4 月 16 日

各 位

会 社 名 アーキテクト・スタジオ・ジャパン株式会社
代表者名 代表取締役社長 丸 山 雄 平
(コード番号：6085 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 管理本部・事業開発本部 所管
長 尾 康 三
(TEL. 06-6363-5701)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 3 月期において、下記のとおり固定資産の減損損失を特別損失に計上するとともに、平成 29 年 5 月 12 日に公表いたしました平成 30 年 3 月期通期業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

当社事業において、営業活動から生じる損益が 3 期連続してマイナスとなる見込みであり、減損の兆候が認められたことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額の全額（166 百万円）を減損損失として特別損失に計上することといたしました。

2. 平成 30 年 3 月期 通期業績予想数値の修正（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,379	百万円 2	百万円 2	百万円 0	円 銭 —
今回修正予想 (B)	1,286	△96	△77	△245	△152.84
増 減 額 (B - A)	△93	△98	△79	△245	—
増 減 率 (%)	△6.7	—	—	—	—
(ご参考) 前期通期実績 (平成29年3月期)	1,378	△70	△70	△259	△162.69

修正の理由

当第4四半期累計期間（平成29年4月1日～平成30年3月31日）の売上高及び営業利益の見込値と同期間の実績値に乖離が生じ、通期において従来予想売上高1,379百万円及び予想営業利益2百万円の達成は困難と判断しましたので、通期業績予想値を修正することといたしました。

当社は従来型スタジオビジネスの成長鈍化傾向に歯止めをかけるため、ホームページにおける顧客サービスサイトの機能を拡充し、有益な建築デザインコンテンツを配信し顧客サービスサイトの価値向上を図り、当社加盟スタジオにおける新規アカデミー会員の獲得を推進しました。また、当社建築家情報空間「ASJ CELL」における著名建築家作品展示会及びセミナー来場者や提携先等の紹介によって獲得した富裕層を中心としたアカデミー会員へ直接的な支援をおこない顧客満足度を高め、登録建築家とパートナー建設会社の受注促進に寄与することで収益の改善を図ってまいりました。

しかしながら、従来型スタジオビジネスの主要業績項目である新規スタジオ加盟が計画を下回るとともに既存加盟スタジオの退会・休眠が見込みを上回った結果、スタジオ加盟金売上、定額ロイヤリティ売上及びマーケティング売上が計画未達となりました。また工事請負金額及びロイヤリティ料率も計画を下回り、請負契約ロイヤリティ売上は直営業部門においては増収を実現したものの、その増収が従来型スタジオビジネスの減収を補うに至りませんでした。

売上高については、前回予想値1,379百万円から93百万円下方修正し1,286百万円となる見込みであります。一方、当社では加盟建設会社の倒産等により工事の継続が不能となった場合において、当社保証約款に基づき当該物件の完成・引渡しにかかる費用の一部を当社が保証するサービスを提供しておりますが、第1四半期において加盟建設会社1社が倒産したことにより、当該保証サービスの発生額並びに将来の損失に備えるため工事完成保証損失引当金繰入額43百万円を販売費及び一般管理費に計上いたしました。

この結果、損益面については、営業損失は96百万円、経常損失は77百万円となり、これに減損損失166百万円を計上することにより当期純損失は245百万円となる見込みであります。

以上

（注）本資料に掲載されている将来の見通しに関する事項については、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績を保証するものではなく、実際は今後の様々な要因によって変動する可能性があります。